文節(2)

係り受け

二つの文節が互いに意味の上で結びついているとき、「前の文節は後の文節に係る」、「後の文節は前の文節を受ける」、という。

（例）白い（修飾）鳥が（主）空を（修飾）飛ぶ（述）。

主・述の関係や、修飾・被修飾の関係などの係り受けが対応していないと、不自然な文になる。また、係り受けの仕方が複数考えられる場合は、意味が複数に解釈できることがある。

（例）大きな　ネコの　絵（大きいのはネコ）

大きな　ネコの　絵（大きいのは絵）

単文・重文・複文

文には、複数の主・述の関係を含むものもある。

・**単文**…主・述を一つずつ含む。

（例）彼女は　図書館に　行った。

・**重文**…二つの単文が対等の関係でつながる。

（例）月は　のぼり、日は　沈む。

・**複文**…主・述からなる文の中に、さらに主・述の関係が含まれる。

（例）私は　彼が　勉強するのを　見た。

連体修飾語・連用修飾語

修飾語は、何を修飾するかによって２種類に分けられる。

・**連体修飾語**…体言（名詞）を含む部分を修飾するもの。

「何の」「どんな」などを表す。

（例）私は　赤い（修飾）　花を　買った。

・**連用修飾語**…用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む部分を修飾するもの。

「何（だれ）に」「何（だれ）を」「いつ」「どこで」「どのように」などを表す。

（例）私は　赤い　花を（修飾）　買った。

確認テスト

(1) 次の文について、——線部を修飾している文節を全て選び、記号で答えなさい。

私は　先月、　友達と　京都に　行きました。

ア　私は　　イ　先月　　ウ　友達と　　エ　京都に

〔　　〕

(2) 次の文について、①～④の二つの文節がどのような関係になっているかをそれぞれア～ウから選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

私の　兄は、　毎朝　新聞を　読む。

①「私の」と「兄は」〔　　〕　②「兄は」と「読む」〔　　〕

③「毎朝」と「新聞を」〔　　〕　④「新聞を」と「読む」〔　　〕

ア　主・述の関係

イ　修飾・被修飾の関係

ウ　直接の係り受けの関係はない

(3) 次の各文の種類をそれぞれア～ウから選びなさい。ただし同じ記号を何度使ってもよい。

①　山は青く、花は赤い。〔　　〕

②　私が植えた種が芽を出した。〔　　〕

③　そのスズメは庭の木の枝から飛び立った。〔　　〕

④　雨が降ったので、私は傘(かさ)を差した。〔　　〕

ア　単文　　イ　重文　　ウ　複文

(4) 例に従って、次の各文の〰〰線部が修飾している文節に——線を引きなさい。

(例)　庭に　きれいな　花が　咲(さ)く。

①　この　大きな　木は、　町の　シンボルです。

②　しばらく　道を　歩くと、　駅に　着いた。

(5) 次の各文について、〰〰線部が連体修飾語ならア、連用修飾語ならイで、それぞれ答えなさい。

①　黒い犬がほえた。〔　　〕　②　外で犬がほえた。〔　　〕

③　とても楽しい話だ。〔　　〕　④　とても楽しい話だ。〔　　〕